

矢作ダム貯水池総合管理計画検討委員会（第4回）  
議 事 概 要

日 時：平成15年11月17日 13:50~17:00  
場 所：ホテルキャッスルプラザ 4階 「梓」

1. 第3回委員会の議事概要等の報告
2. 第4回委員会資料の説明
3. 議事概要

1. 内容及び検討フローの説明

- 自然環境対策として、ダム貯水池・下流域及び上流域において、濁水・冷水・流量が自然環境に与える影響を捉えることで検討を行う。
- ダム貯水池の濁水、冷水、維持流量対策として、ダム貯水池内対策とダム放流設備の操作方法の改善等について検討を行う。
- ダム貯水池の土砂対策として、短期対策と長期対策に分け、排砂対策検討を行う。

1. 自然環境対策について

- ダム下流の水質特性、付着藻類と濁度の関係、アユの生態と濁度の関係等について、これまでの調査結果及び既存資料を取りまとめた。
- データの解釈で根拠が不明瞭な箇所が見受けられた。
- 
- 付着藻類と濁度を評価する場合は流量のデータも並列すること。
- 濁りの成分分析を行うこと。
- 無機付着物の含有量を調べる。
- 鮎の生息に必要な環境を検討するためには、河川の状況を把握するためのモニタリングを行うこと。
- 面的な付着藻類の調査結果は河川環境の評価として用い、アユの餌環境としては現状の礫上からの採取でよい。
- アユの生息環境の検討は、藻類の調査だけでなく、アユの分布状況や生息量を加えること。そのためには瀬で複数回鮎を採捕すること。

1. 濁水対策について

矢作ダムの貯水池の回転率、貯水池内の水温・濁度の垂直分布について説明。

濁水軽減対策の比較検討を一次元多層モデルでシミュレーションし、分画フェンスの優位性を説明。

- 分画フェンスは具体的検討を行い、対策後の評価とモニタリング調査を設置後に行う。・・・実施する結果が出たか？
- 富栄養化現象は、今までは見られていないが、富栄養化に関わる水質状況を整理する
- 貯水池の回転率 の値は一般的に  $= 1.0$  で水温成層は破壊されるが貯水池の形状、取水方法等で異なる。  
矢作ダムの と水温成層の関係を把握しておくこと。
- 濁水対策は水温成層が破壊され、湖内の濁水濃度が均一化すると対策による効果は得られない。

## 1. 堆積土砂対策について

- 矢作ダムの堆砂状況について説明。その概要を以下に示す。  
矢作ダム建設後30余年間により1,400万m<sup>3</sup>のy堆砂量となっている。このうち、平成12年の東海豪雨で280万m<sup>3</sup>の土砂が流入し、約830万m<sup>3</sup>は有効容量内に堆積している。
- 堆砂量の算定方法を昭和63年度から、横断測量的間隔を3km地点までは400m間隔から200m間隔に変更した。
- 矢作ダムの堆砂は、昭和54年に選択取水設備の建設時に水位を下げたために大量の土砂が下流に移動した。平成12年の東海豪雨で一気に大量の土砂が流入し、デルタの先端部が7km付近から9km付近に移動した。大きく三つの時代に形状が分かれている。
- 今後、土砂の粒度分布、堆砂と洪水流量の関係を検討していくこと。